

- ・インフルエンザの定点当たり報告数は、0.72で前週より減少しています。
- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、1.84で先週より減少しています。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、4.09で増加傾向です。

全数報告対象疾患

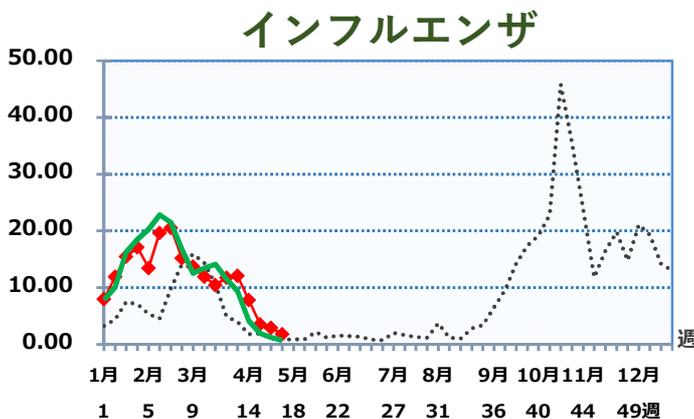
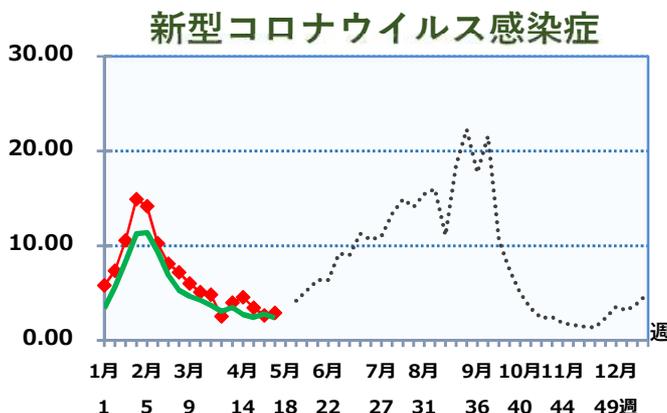
■（五類）梅毒 1件

- ・（50代男性）早期顕症梅毒Ⅰ期、感染地は北区、推定感染経路は性的接触（異性間）

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023北区
—◆— 2024北区
—■— 2024東京都



Topics

梅毒が急拡大しています～先天梅毒を防ぎましょう～

梅毒は、性行為で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。キスでもうつる感染症です。感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいの大きさのしこりや痛みの少ないただれができ、手のひらや足の裏など、体中に痛みやかゆみのない発疹が広がります。無症状の場合もあるため、自分でも気づかないまま病気が進行していきます。そして気づかないまま他人に感染させていきます。一度治療しても再び感染することがあります。

【先天梅毒とは】

妊娠中の女性が梅毒に感染している場合に、その感染がお腹の中の赤ちゃんにも広がる病気です。赤ちゃんが生まれてくるときにはすでに病気を持っているため、この状態を「先天梅毒」と呼びます。この病気は、赤ちゃんの成長に様々な影響を与えます。具体的には、低体重での出生、聴覚や視覚の障害、骨の変形、皮膚の発疹、および肝臓などの腫れが挙げられ、重い場合には命にかかわることもあります。

【予防と対策】

①早期発見のために

妊娠を計画している女性や妊娠中の女性は、梅毒を含む性感染症の検査を早期に行うことが重要です。

これにより、早期治療が可能になります。保健所でも検査を行っていますが、妊娠中の女性は、妊娠届を出して妊婦健診を受けることで、性感染症の検査を受けることができます。

②パートナーとのコミュニケーション

パートナーとの開かれたコミュニケーションを持ち、互いの性的健康を確認し合うことが大切です。パートナーも一緒に検査をすることが推奨されます。

③安全な性行為

コンドームの使用を含む安全な性行為を心がけることで、梅毒を含む性感染症のリスクを低減できます。

④医療機関への相談

性感染症の可能性がある場合は、恥ずかしがらずに医療機関を受診し、適切なアドバイスや治療を受けることが大切です。

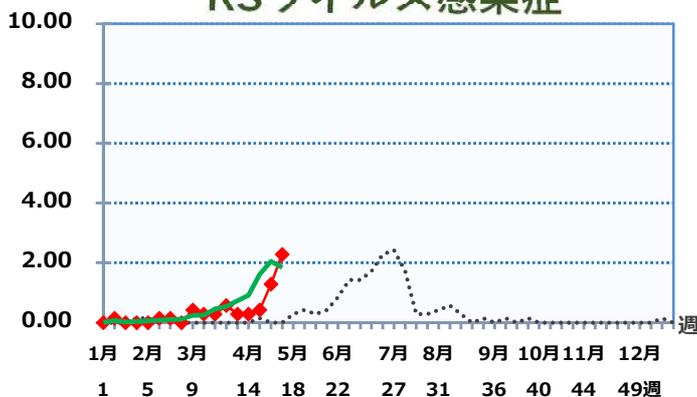
先天梅毒は予防可能な病気であり、妊娠を希望する女性や妊娠中の女性は、定期的な検査と必要に応じた治療を受けることで赤ちゃんへの感染リスクを大幅に減少させることができます。自身の健康と未来の子どもの健康を守るためにも、積極的に医療機関を利用し、定期的な検査を行いましょう。

定点把握対象疾患

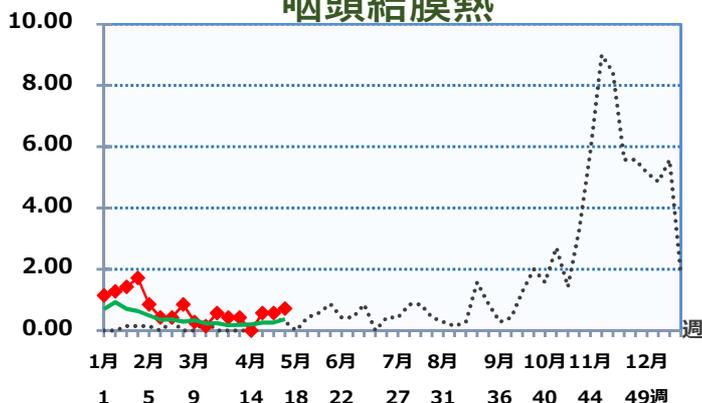
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023北区
 ◆ 2024北区
 — 2024東京都

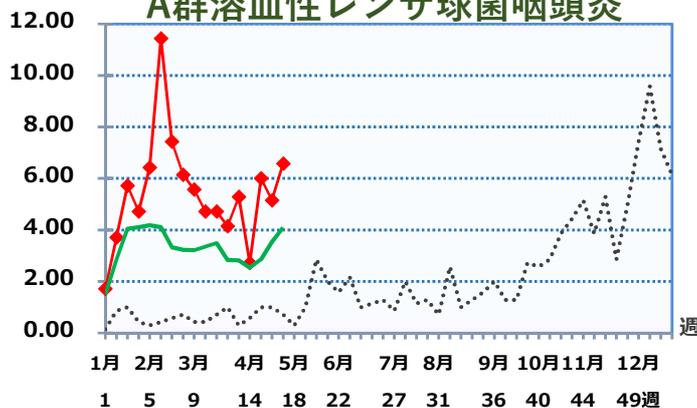
RSウイルス感染症



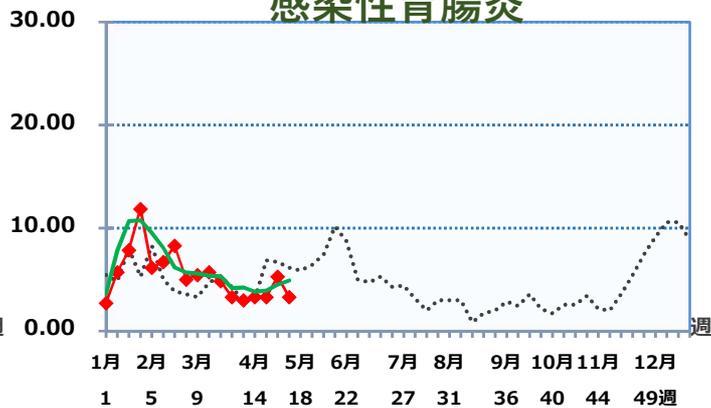
咽頭結膜熱



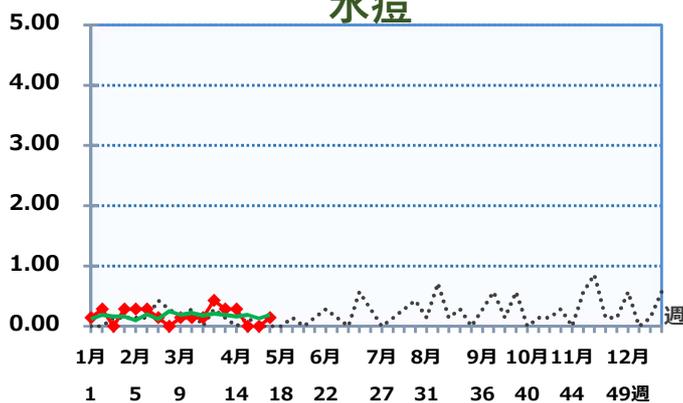
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



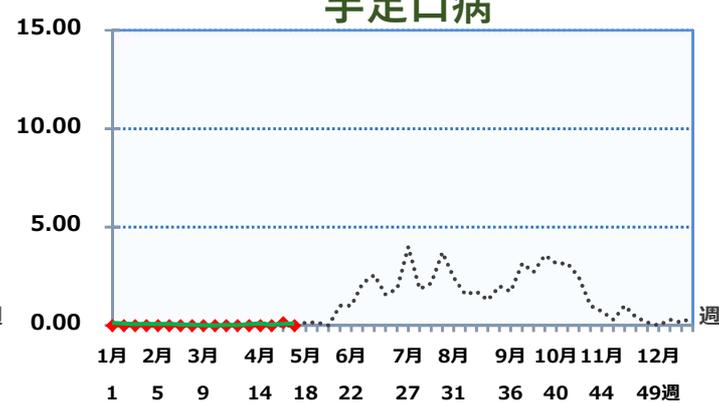
感染性胃腸炎



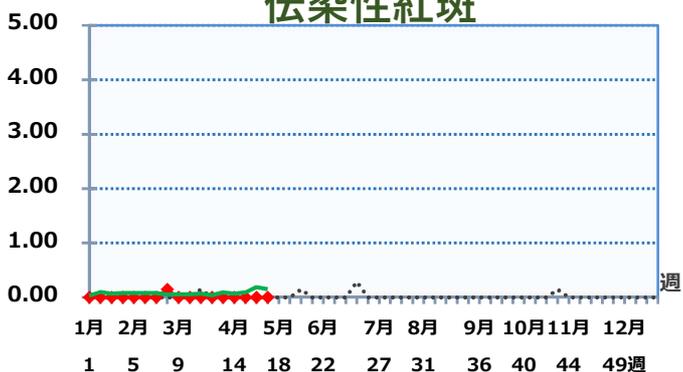
水痘



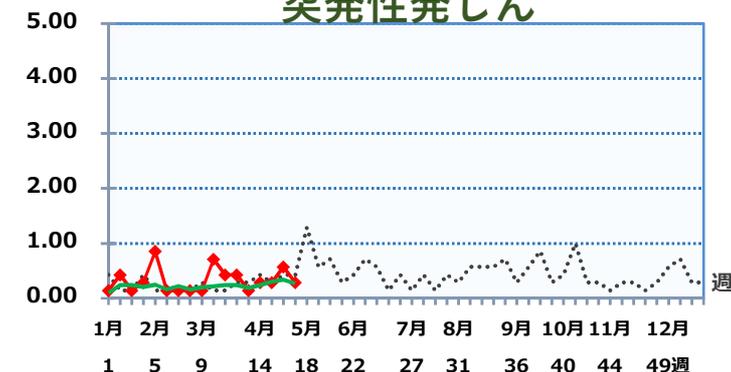
手足口病



伝染性紅斑



突発性発しん

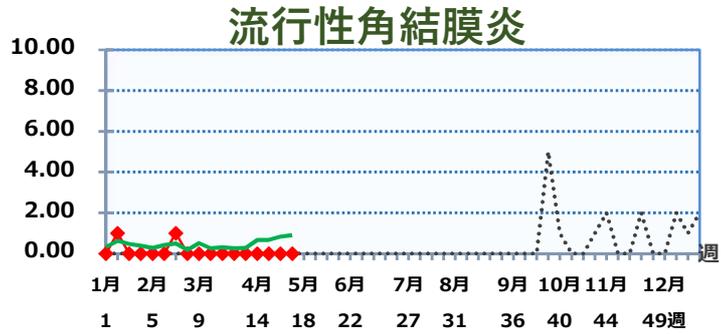
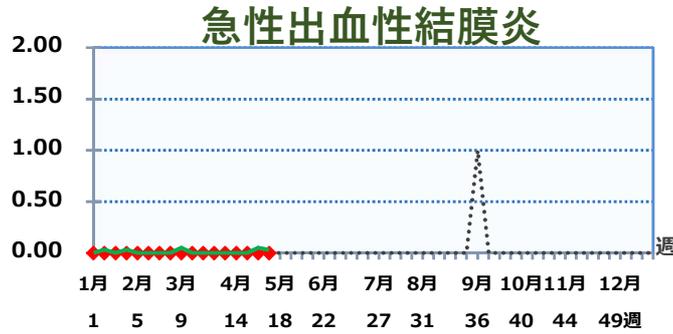
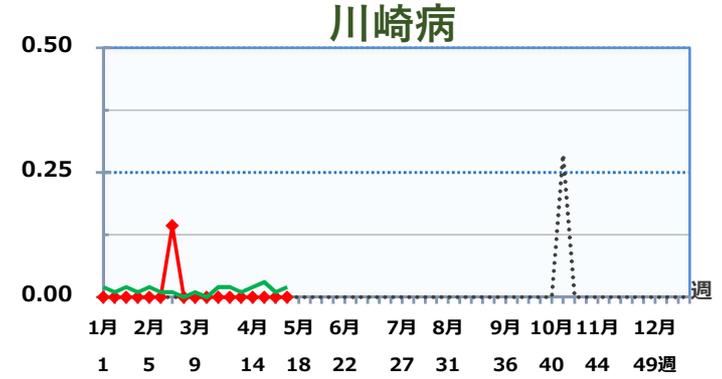
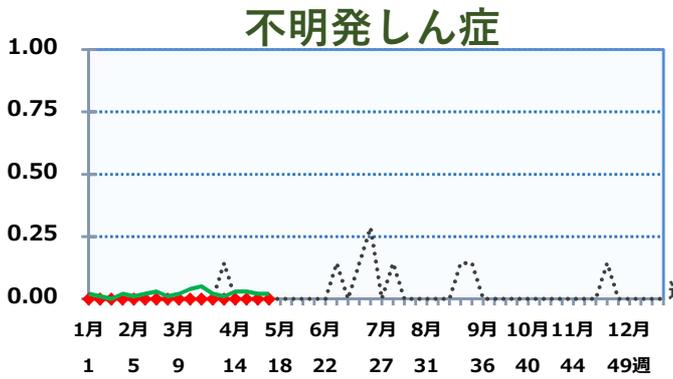
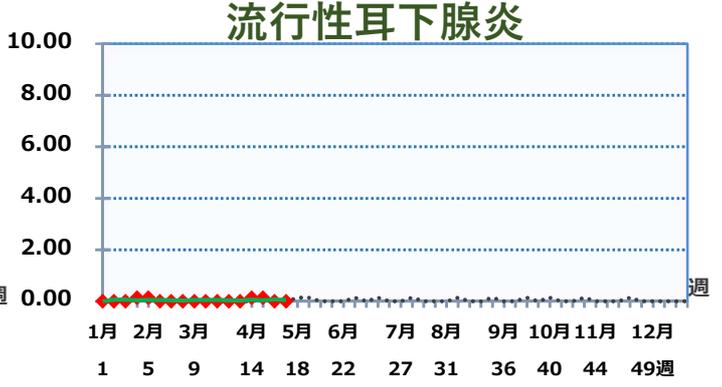
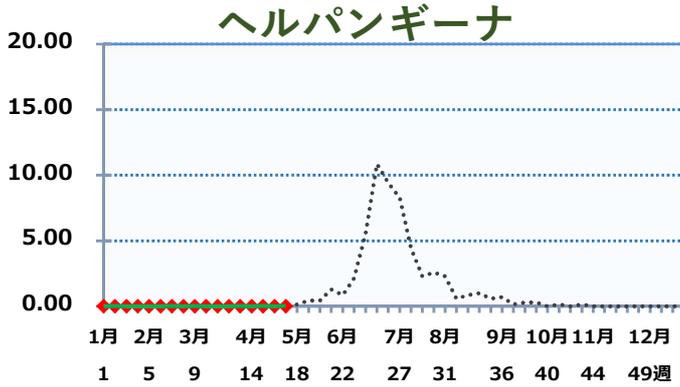




定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

- 2023北区
- ◆ 2024北区
- 2024東京都



性感染症 (2024年3月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2024年4月分は2024年第19週号にて掲載予定です。

